

京は水もの

えにし訪ねぶらり探訪

◆ 31 ◆

エコロジカルネットワーク

今年10月14日朝、切削工
具などを扱う中堅商社「三
共精機」（京都市南区）本
社で「事件」は起きた。営
業所長がたばこを一服し
に5階のベランダに出る
と、プランターに植えた
フジバカマに普段見かけな
いチョウの姿が。「誰かカ
メラを持ってきてー」。そ
の声に総務部の杉原ゆりさ
ん(24)が駆け付け、スマホ
でパチリ。淡い水色がまだ
ら模様浮かびあがった

アサギマダラの姿を収め
た。
杉原さんは「集まった社
員から美しさにホーツと声
が上がりました。やがてふ
つと飛び立ちました。人
が居なくなると戻ってき
て、ずいぶん長く蜜を吸っ

ていた。まさか本当に現れ
るなんて」と感激する。
同社がフジバカマやフ
タバオイなど京都ゆかり
の希少植物を育て始めたの
は昨年。京都で生まれ
た環境マネジメントシステ
ムの普及を図る「KES環
境機構」（右京区）が、生
物多様性を守るため呼びか



渡りの途中、フジバカマで羽を
休めるアサギマダラ＝三共精機
提供、2016年10月14日

京都の人たちは「伝統文化
への貢献」という言葉に弱
いんですね」
パイロット事業として実
施した14年は18、初年度の
15年は96、16年は180の
事業所に広がった。来年か
らは京都市立の全小中学校
にも広げていくという。
森本幸裕・京都学園大教

環境保護で伝統文化へ貢献

けた「KESエコロジカル
ネットワーク」への参加に
応じてのこと。台湾や日本
列島を2000キロにわたり
旅するアサギマダラが、今
年初めて同社で羽を休めた
のだ。

「紙やゴミ、電気の削減
ならコストダウンにつな
がりますが、生物多様性と
なると果たして経営者の
理解が得られるか。正直不
安でしたが、予想以上の
事業所に参加いただけた。

授環境デザイン学は「一
つ一つは小さな点でしか
なくても、たくさん集まれば
面的な効果が表れる。生き
ものにとって砂漠のような
都市環境を改善する呼び水
になってくれれば」と話し
ている。【榊原雅晴】

「緑水歩廊」。階段を利用し
たプランターに雨水を流下
させ、京都の里山風景を再
現するビルの「雨庭」だ。

環境経営の指標であるK
ES認証を2002年に受
けた同社は、会社設立60周
年の08年に「環境負荷を減
らすだけでなく、プラスに
なることを」と京都モデル
フォレスト運動に参加し、
南丹市美山地区で植林活動
をスタート。使用済み切削
工具のリサイクルによる資
金の一部を植林に当てる、
「ものづくり」企業ならで
はのユニークな取り組みで
も注目されている。

社長の石川武さん(50)は
「機械を扱う者にとって生
物多様性」といわれてもな
じみは薄い。しかし、植林
を続けてきたおかげで「こ
れ、うちでやっていること
だよ」という社員の反応

KES環境機構専務理事
の津村昭夫さん(73)は「生
物多様性条約が発効し、1
000社を超すKESのネ
ットワークを生かして何か
貢献できないかと考えまし
た。そこで京都の玄関口に
ある『緑水歩廊』をハブと
したネットワークを築き、
京都市の生物多様性プラン
に協力していくことになっ
たのです」という。

「緑水歩廊」。階段を利用し
たプランターに雨水を流下
させ、京都の里山風景を再
現するビルの「雨庭」だ。

三共精機ベランダに置かれたフジバカマの鉢植え。秋にはアサギマダラが飛来した。
右端が社長の石川武さん＝京都市南区で



「緑水歩廊」。階段を利用し
たプランターに雨水を流下
させ、京都の里山風景を再
現するビルの「雨庭」だ。

「緑水歩廊」。階段を利用し
たプランターに雨水を流下
させ、京都の里山風景を再
現するビルの「雨庭」だ。

